

目的 被服における図柄のイメージに関する研究は、近年数多く報告されているが、それらは静的イメージの研究であり、動的イメージについての報告は見当たらない。そこで被服の代表的な図柄の1つである縦のストライプ柄をとりあげてフレアースカートを作製し、スカートを揺動させた場合と静止させた場合のイメージの関連性を検討した。また静置した平面状試料片のイメージとの関連性についても検討した。

方法 ①試料布はストライプの色と幅によるイメージ効果をみるために、市販されている布の中から、白との2色配色でストライプが黒の1mm幅(A₁)、3mm幅(A₂)、10mm幅(A₃)、青の10mm幅(A₄)、淡青の10mm幅(A₅)、紺の3mm幅(A₆)、22mm幅(A₇)、水色の3mm幅(A₈)、22mm幅(A₉)の9種類を選択した。素材は綿ブロードであるが、A₁~A₅とA₆~A₉ではその種類が異なる。②フレアースカートは4枚接ぎとし、布目方向を2種類設定した。③スカートを大腿部付人台に着用させ、静止時と速度125歩/分、角度40度で揺動させた時のイメージをSD法で評価し、因子分析法により解析した。また静置した60cm×45cmの試料片についても同様に解析し、それぞれの関連性を検討した。

結果 ①ストライプ柄のフレアースカートの静止時と揺動時のイメージは、共に明瞭・活動・評価・感覚の3因子で表すことができた。②静止時と揺動時のイメージの違いは、特に黒3mm幅のストライプ柄において顕著に認められた。③試料片のイメージは3因子で表されるが、各因子において高い負荷量を示す形容詞対は、スカートの場合とやや異なった。④試料片とスカートのイメージの差は、ストライプ幅10mmの場合に表れやすい。